

2022年3月20日（日）主日朝礼拝説教

『ユダと香油』井上隆晶牧師
ゼカリヤ 11 章 10～14 節、マタイ 26 章 6～16 節

①【香油を注いだマリア】

イエス様の十字架の前に、マリアとユダという二人の人が登場してきます。この二人はとても対照的な信仰をしています。今日はそのお話をします。
イエス様が食事の席に着いていた時、一人の女性が純粋で非常に高価なナルドの香油の入った石膏の壺を持って来て、香油をイエスの頭に注ぎかけました。ヨハネ福音書ではこの女性はラザロの姉妹マリアだと伝えています。（ヨハネ 12：3）ナルドの香油は非常に高価なもので、マリアが注いだものは 300 万円以上するものでした。しかもマルコ福音書では、彼女はその香油の入った石膏の壺を壊して、全部を惜しげもなくイエス様の頭に注いだと書かれています。マリアはなぜこのような行動をとったのでしょうか。思うに十字架に向かおうとしているイエス様に対する、自分が出来る精一杯の感謝の気持ちだったのではないかと思います。それが後でイエス様の葬りの準備にもなったのだと思います。結局香油を注いだのはマリアだけなのです。昔、楠正成が後醍醐天皇のために戦って死ぬことについて「尊い者のために使う命は無駄死にとは言わないものです」と言ったことを思い出します。愛する大切な人の為なら多くを使っても惜しいとは思わないものです。自分の命でも差し出すこともあります。

②【計算で生きる弟子たちの信仰】

ところが弟子たちは「なぜ、こんなに無駄遣いをするのか。」（8 節）といって彼女の行為を非難しました。ヨハネの福音書ではこれを言ったのはユダだと書かれています。「弟子の一人で、後にイエスを裏切るイスカリオテのユダが言った。『なぜこの香油を 300 デナリオンで売って、貧しい人々に施さなかったのか。』（ヨハネ 12：5～6）「なぜ、こんなに無駄遣いをするのか。」という言葉に注意してください。マリアが自分の持ち物である香油をどう使おうと彼女の自由です。それなのに彼女の香油の使い方まで指図しています。またイエス様に対しても失礼です。「イエス様に高価な香油を使うなんて無駄だ」といっているのですから。弟子たちはいつも「計算」で生きています。この人は自分の役に立つかどうか、これをすることは自分の夢を実現させるのに役に立つかどうかで見えています。自分の利益の為に人もイエス様も利用しようとしているのです。ここに彼らの高慢と偽善が隠れています。この出来事後、ユダはイエス様を引き渡そうとして祭司長たちの所へ出かけて行き銀貨 30 枚（90 万円位）を受け取りました。これは奴隷の値段と同じです。イエス様もすいぶん安く見積もられたものです。ゼカリヤ書の中にこの場面の預言がでできます。「もしお前たちの目に良しとするなら、私に賃金を払え、…彼らは銀三十シェケルを量り、私に賃金としてくれた。…私

が彼らによって値をつけられた見事な金額を。」(ゼカリヤ 11 : 12~13) ユダはこの世的には頭が良いですが、霊的には無知な者でした。彼は香油の価値をすぐに計算しながら、イエス様の価値を見誤りました。私たちはどうでしょうか。キリストの価値がどれほどすごいか分かっているのでしょうか。キリストを何と交換しますか。

③【ユダの愚かさ】

ユダはなぜ裏切ったのでしょうか。何が彼を狂わせたのでしょうか。教父たちは口を揃えて「貪欲」のせいであるといっています。祈禱文では「ユダは貪りの病によって暗くなった、…満足することをしらない魂よ」といわれています。ユダの愚かさとは何でしょうか。

①彼の愚かさの一つ目は「恵みを無駄にした」ことです。ユダは聖餐をいただいた手を銀貨に伸ばし、洗われた足をもって祭司長たちの所に走って行きました。せつかくイエス様の近くにいて教えを聞き、たくさんの恵みをもらいながら、彼はそれに満足できなかったのです。本当の恵みの無駄遣いをしているのはユダよ、あなたなのです。なぜ恵みが分からなかったのでしょうか。それは自分の夢という偶像にしがみつき、それを追いかけていたからです。自分の夢がかなえられると思うから、辛くても頑張ってきたのです。ところがイエス様は、病人や貧しい人とばかりつきあい、いっこうに改革に腰を上げません。エルサレムに入場したと思ったら、死ぬと言いはじめます。いつまでたっても王にならないのでユダは策を設けたのです。イエス様を窮地に追い込めば、奇跡を行ってローマ軍を追い払い、エルサレムに王国を実現させてくれると思ったのです。神を試みてはならない。偶像を追いかける罪は何と恐ろしいことでしょうか。神の恵みが見えなくなるのです。

②彼の愚かさの二つ目は「神の言葉を本気で聞いていなかった」ことです。もしキリストの言葉をしっかり聞いて信じていたら自殺しなかったでしょう。主は「人の子は三日目に復活する」と三回も言われていたのです。ユダよ、あなたは三日も待てなかったのですか。三日待てば復活したキリストを見る事が出来たのに。あなたは普段から、御言葉をどうやって聞いていたのですか。あなたはこの世と来世の二つの命を失いました。

③彼の愚かさの三つ目は、自殺という方法で罪の処理しようとしたということです。ペトロのように泣くことが出来たらよかったのにと思います。ここに、この世の逆転があります。強い者は神の国に入りにくいのです。自分の力を信じている者、プライドのある者ほど、絶望するのも早いのです。自分に頼ったからです。ユダの罪は、自殺をしたことではありません。キリストに期待せず、彼に絶望したことです。

ここまで話してきて、二つの信仰のスタイルがあることがお分かりでしょうか。マリアの信仰はキリスト中心の信仰ですが、ユダの信仰は自分中心の信仰です。マリアの信仰は、神が自分にしてくれることを喜ぶ信仰ですが、ユダの信仰は、

自分の夢がかなえられることを喜ぶ信仰です。マリアは御言葉に聞き入りましたが、ユダは御言葉を聞こうとしませんでした。ユダは自分の夢に仕えましたが、マリアはキリストに仕えました。ユダは自分に頼り絶望しましたが、マリアはキリストに希望を持ちました。

④【今日も100%の愛で愛されていることを知ろう】

イエス様は「世界中どこでも、この福音が宣べ伝えられる所では、この人のしたことも記念として語り伝えられるだろう。」(13節)と言われました。マリアがしたことは、キリストが私たちにしてくれた福音のひな型だったからです。すなわちマリアが石膏の壺を割って、その中の香油を全部注いでしまったように、イエス様は自分の体を十字架の上で壊し、自分の持っている愛と命と赦しを一滴残らず、全ての人に注がれたからです。キリストの愛は純粹で、どんな人にも100%を与える愛でしょう。損をしても与える、無駄になったとしても与える愛です。ヨハネ福音書は「家は香油の香りでいっぱいになった」(ヨハネ12:3)と伝えています。この家はこの世界を象徴しています。この世界にはイエス様の愛と命と赦しが満ちているのです。ユダは「なぜ、こんなに香油を無駄遣いしたのか」といいましたが、本当に愛の無駄遣いをされたのは神様の方です。キリストの愛と命が豊かに注がれても、ユダは気がつかないからです。ユダも100%の愛で愛されたのです。イエス様に足を洗われ、聖パンをもらったのです。自分が溢れる愛で愛されていることを知ることは何と難しいことでしょうか。大事なことは、この大きな純粹な神の愛、偉大な犠牲に気がつくということではないのでしょうか。

●今回のウクライナ戦争でロシア正教会のキリール総主教は「性的少数者らが性の多様性を訴えたプライドパレードがウクライナの戦争の原因の一つになった。ウクライナ侵攻は正当である。」といいプーチンを支持しました。一方ローマ・カトリック教会のフランシスコ教皇が同性愛者の男性に「神はあなたをこのように作り、このままのあなたを愛している。あなたも自分自身を愛しなさい。人々の言うことを心配してはいけない。」と言いました。何と違う事でしょうか。世界の正教会はキリール総主教の発言を非難しています。フランシスコ教皇とキリール総主教が電話で話したそうです。教皇は「戦争は常に不正です。戦争の代価を払うのは神の民です。戦争が解決の道となることはありません。私たちを結ぶ聖霊が、教会を牧する者として戦争に苦しむ諸国民を支援するようにと、私たちを促しています。」と語り「政治的言葉ではなく、キリストの言葉で語り合ひましょう。」と言われたそうです。

私にはキリール総主教もプーチンもユダに見えるのです。たくさんの教会を持ち、あんなに豊かなのになぜ満足できないのでしょうか。なぜ過去の像にしがみつくのでしょうか。正教会のキリスト教徒がカトリックに改宗するのを恐れ、自分たちの守ってきた伝統が崩れるのを恐れています。貧しくなってもいいではありません

か。弱くなってもいいではありませんか。私たちはキリストに愛されて本当は豊かなのですから。マリアが香油を手離したのも、彼女はイエス様の愛で豊かにされていたからです。心が豊かであることが本当の幸せなのです。マリアの心を私たちも持ちましょう。キリストの大きな純粋な愛が見える者でありますように祈ります。